

東日本大震災報告 その2

2011年8月25、26日に、技士会連合会主催で小林会長を団長とする総勢35名で岩手県沿岸の被災地視察を行いました（写真1）。

現地では津波の高さを実感する（写真2、4、5、9）とともに、1. 重力式の海岸堤防では内陸側の堤防付け根で越流による先掘が起こらないようにする必要がある（写真6）、一方捨て土中詰め堤防では強度そのものが不足していた（写真7）、2. インフラ復旧後それを利用する需要をどう確保するかも重要な論点である（写真3）、3. 今回津波高が低く予想され安心して避難が遅れ数百mの距離でも間に合わなかった（写真8 奥の学校は無事）、よって将来構造物だけでなく避難も含めて安全を確保する場合、津波高の短時間での計測・予測が重要である、等を話し合いました。（文責 専務理事 猪熊）



1 視察団



2 陸前高田市役所



3 大船渡商店街復旧



4 釜石港



5 大槌町役場



6 山田町舟越地区 堤防



7 宮古市田老地区 堤防



8 田老地区 避難の方向と学校



9 田老地区 明治昭和の津波高
平成はさらに2m高い